医療法人社団 青泉会
下北沢病院 糖尿病性足潰瘍

糖尿病があると、足に潰瘍が出来るリスクが高くなります。糖尿病の方が入院する最も多い理由が足潰瘍です。通常の方と異なり、糖尿病の方の足に潰瘍ができると治るまでに数ヶ月かかることも少なくありません。また、糖尿病性足潰瘍は痛みを伴わないことが多いのも特徴です。



糖尿病性足潰瘍ができる原因

糖尿病のある方は足に問題が起きる可能性が高く、その原因の多くは 2 つの大きな糖尿病合併症（神経障害と血行不良）にあります。
神経障害では足の感覚が無くなり、足の痛みや不快感を感じないため、外傷などが出来ても気付くことが出来ません。靴ずれがあっても気付かずに歩き続けて骨に達する潰瘍に発展してしまうこともあります。
血行不良があると、足の傷が治癒する力が減るため、ほんの小さな切り傷でも感染に対抗できなくなります。

糖尿病合併症の覚え方

重症化



し 神経障害
手足のしびれや、感覚が無くなる

え 壊疽
足が腐る
最悪は切断に至ることも…

め 網膜症
視力の低下
最悪は失明に至ることも…

の 脳卒中
脳の毛細血管が傷つく度に脳卒中を起こすリスクが高まる

じ 腎症
腎臓の症状
人工透析となる場合もある

き 虚血性心疾患
心筋梗塞や狭心症などの重大な病気になるリスクが高まる

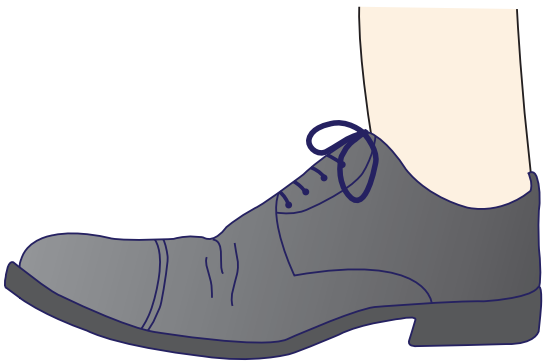
自宅でのケアと予防方法

医師の診察を受けずに自己判断で治療をすることは潰瘍の重症化につながる可能性がありますので、お勧めできません。糖尿病の方は足の小さな傷から足切断につながる可能性もありますので必ず医師の診察を受け、その指示に従いましょう。

糖尿病の方はちょっとした靴ずれや、魚の目、タコなどでも治らない創傷に発展することがよくあります。特に足に神経障害などがあると、傷ができたことにも気付かないまま傷がどんどん大きくなる恐れもあります。
毎日自分の足を目で見てチェックし、異変に気付いたら専門医を受診しましょう。靴下はできれば白や色の薄いものを選び、脱いだときに汚れがないか、チェックしましょう。

また、糖尿病のある方は、普段履く靴にも注意しなければなりません。

- ▼キャンバス地、皮、スエード生地の靴を履く。プラスティックやビニールのような蒸れやすい生地でできた靴はお勧めできません。
- ▼靴紐、マジックテープ、バックルなどで調整出来る靴を履きましょう。
- ▼正しく足にフィットし、中に余裕のある靴を履く。特注の靴を履かなければいけない場合もあります。
- ▼ハイヒール、ぞうり、サンダルなど、先のとがった靴、足先の開いた靴は傷を作るリスクになりますので履いてはいけません。



医療法人社団 青泉会
下北沢病院 糖尿病性足潰瘍

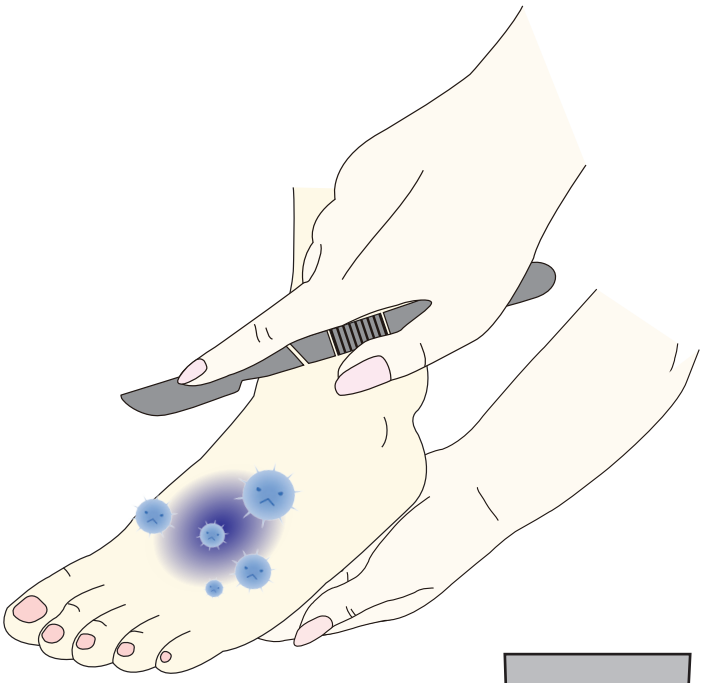
治療方法

▼創傷のデブリードメント

デブリードメント（又はデブリードマン）は創傷の「外科的掃除」のことで、傷の部分に麻酔をして、殺菌したメスなどで汚い組織を丁寧に取り除きます。

デブリードメントにより壊死、不良組織を掃除しながら傷の中の状態も確認できますし、壊死組織やばい菌を除去することによって、感染の予防にもなります。

また、デブリードメントで創傷を刺激すると大切な組織の生成を助けるので、傷が早く治ります。



▼創傷の手術

重度の場合には、手術をお勧めしております。

▼外用薬や創傷被覆材

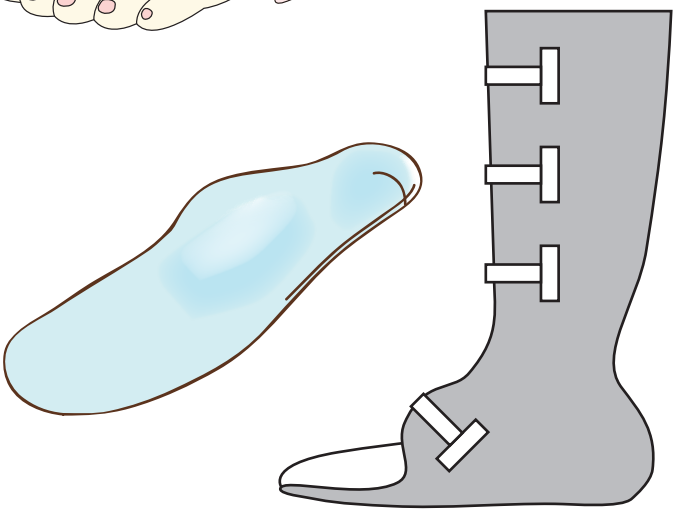
感染を防ぎ、湿潤環境を保ち、創傷治癒を促します。

▼内服薬

培養の結果に基づき、抗生剤を処方します。

▼装具・インソール

創傷がある部分は靴で擦れることで悪化します。創傷部の圧を低減するためには、装具やインソールが必須になります。



医療法人社団 青泉会 下北沢病院
〒155-0031
東京都世田谷区北沢 2 丁目 8-16

受診受付窓口
TEL：03-3460-0300
http://shimokitazawa-hp.or.jp/